



資料館だより

No.36
2011年
5月号

過去と未来がひびきあう

—ようこそ、エコミューズへ。

www.aozora.or.jp/ecomuse/

あおぞら
財団付属

西淀川・公害と環境資料館

エコミューズ

新潟水俣病スタディツアー 情報発信しています

2010年夏におこなった「公害地域の今を伝えるスタディツアー—新潟水俣病の地を訪ねて」の報告書&ホームページが完成しました。被害者の声はもちろん、行政、医者、弁護士、支援者の声を集めています。



▲トップページ

<http://www.studytour.jpn.org/>

現在の状況を聞いて、参加者が感じたこと、できることを振り返って考えたことも必読です。公害問題は過去の問題ではなく、現在の私たちにつながっている問題ということがわかります。ぜひご覧ください。

水俣病問題と聞いても、裁判がいろいろとあり、何が問題なのかがわかりにくいのですが、公害を経験していない世代が新潟水俣病の問題をとらえると、どのように見えて、整理するのが見えやすくなっています。



報告書がホームページからダウンロードできます。

■2011年スタディツアー

は西淀川で開催！！

8月8日～11日に開催します。

5月中旬に募集を開始しますので、ホームページなどで情報をチェックしてください。お待ちしております。

■スタディツアーブログ

リレーエッセイ「参加者の今」連載中！

スタディツアーを経験したみんなが、いま考えていること・実践していること。そんな「参加者の今」を発信しています。

<http://studytoura.exblog.jp/>

●天野が語る、この資料●

映像に写し出された1970年前後の西淀川
映画『娘たちは風に向かって』（1971）

映画の舞台は西淀川区姫島にある「大建被服」、70年前後に日本全国にふき荒れた「中小企業倒産」と「首切り合理化」の一環として出された「企業閉鎖・全員解雇」に立ち向かう女性労働者の勝利への戦いの記録です。平均年齢20歳という若い女性がほとんどの組合がなぜ勝利できたかを背景に、働き続ける意味を問い続け、伴侶を見出し、人としての繋がりを築き上げていった西淀川の人々の生き様の記録でもあります。



映画のパンフレット



原作の本

注目したいのは、そこに当時の「公害反対デモ、福漁港からの合同製鐵の高炉、汚れた大野川」が映し出され、主人公「ヒロ子」と米倉齊加年演ずる「団結劇場」のヒーローとの別れの場面が、阪神電車「福駅」でのロケーションで描かれていることです。デモの場面では「西淀川から公害を無くす会」のゼッケンをつけて行進している様子が描かれています。一瞬しか映りませんが「福漁港の向こうに見える合同製鐵の高炉」は今では見ることの出来ない実像でもあります。

しかも、この映画は前に書いた米倉齊加年、宇野重吉、日色ともゑ、津田京子、櫻山文江、佐々木愛、新谷のり子という今では考えられない豪華な俳優人や多くのボランティアに支えられています。

この「西淀川裁判の時代」、公害が激しかった西淀川には、このような青春のドラマが存在し、現在もその闘いを引き継ぐ運動がこの西淀川の様々な人々を支えていることを「読み取る」ことのできる作品です。

私はこの映画の原作「明日をよぶ娘たち」の本を出していた出版社の社員としての経歴を持っていますので、とりわけ思い出の多い作品です。

（資料整理スタッフ 天野憲一郎）

もりもとまきの アーキビストの目

☆☆☆所蔵資料紹介☆☆☆



弁護士も立ち上がる
—西淀川大気問題研究会—

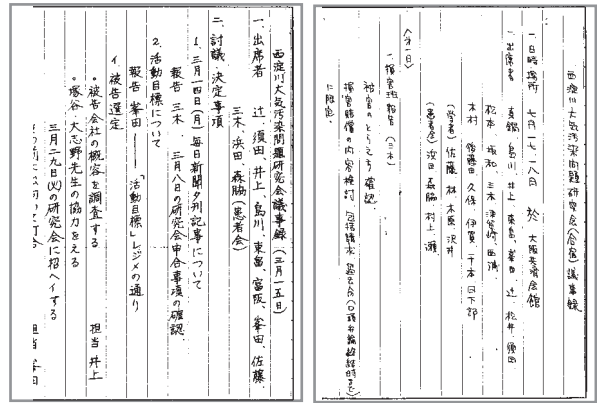
西淀川公害訴訟弁護団の母体となったのは「西淀川大気問題研究会」です。エコミューズでは会議録など、同研究会の多くの資料を所蔵しています。

研究会は'73年11月、青年法律家協会(青法協)大阪支部で発足しました。'54年に若手法律家たちが設立した青法協は、'69年に「全国公害研究集会」をスタートさせるなど、公害問題に高い関心を持っていました。当時西淀川公

害患者と家族の会事務局長であった森脇君雄は、青法協に対して西淀川公害裁判提訴の必要性和協力を訴え、西淀川大気問題研究会の発足に至りました。翌'74年、患者会の被害救済要

請を受けて大阪弁護士会公害対策委員会に設置された「西淀川問題小委員会」にも、同研究会のメンバーが参加しました。

提訴の前年、'77年3月15日の会議録(眞鍋正一弁護士資料No.992,写真左)からは、被告の選定、研究者・医師らとの協力強化、訴訟のための資料収集、弁護団の体制などについて討議され



若き弁護士たちの奮闘を伝える

ていることがわかります。また同年7月の合宿議事録(同No.1016,同右)では、訴状案の検討過程などがわかります。

患者に寄り添い、公害に立ち向かい、西淀川に青い空をよみがえらせようと奮闘した弁護士たちの姿を伝える資料です。

アーキビストとは、文書や資料の収集・整理・保存に関わる専門家のことです。



やかた館 訪問記

番外編
地域交流スペース
あおぞらイコバ
大阪市西淀川区千舟1-1-1あおぞらビル1F
<http://aozora.or.jp/ikoba>

あおぞら財団、エコミューズが入居するビルの1階に「あおぞらイコバ」なるスペースがあります。「イコバ」・・・2010年12月に開設した、ちょっと風変わりな名前の場所。でも、今ではすっかり、昔からその名前と決まっていたかと思うぐらい、定着感があります。駐輪場だったところを、地域住民や学生さんたち、あおぞら財団スタッフが専門家の手も借りながら、改装しました。貸しスペースなので、会議やギャラリー、コンサート、上映会などに利用していただけます。飲食もOKです。ちょっと立ち寄るのもよし、自分の作品を展示するのもよし、イベントを企画するのもよし、使い方はいろいろです。みなさま、生まれ



たばかりの「イコバ」をよろしく願います。(鎗山)

お知らせ

エコミューズ活動資金
【ハモン基金】
寄付協力をお願いします
エコミューズを支えてください。あなたの寄付金は青空へとつながります。

●寄付の方法
郵便局からお振込いただけます。また、直接エコミューズにお越しいただいても結構です。

【口座番号】
00960-9-124893

【口座】十万円／一万円／千円



【加入者名】あおぞら財団 ※通信欄に「ハモン基金への寄付」とご記入ください。一口の金額はお選びください。

ボランティア隊
「エコミュウ★」募集
あなたも「エコミュウ★」に入っちゃお！資料整理や展示、イベントの手伝いなど、活躍の場がいっぱいです。交通費●実費支給(上限2000円)

どうぞお気軽にお問い合わせください。



編集後記

エコミューズでは年に1回、運営協議会を開催し、これまでの1年間の活動を報告し、次の計画についてアイデアを出し合います。大学の研究者、博物館の学芸員、自治体の市史編纂担当者、弁護士など多彩な顔ぶれです。3月25日(金)に第5回目を開催しました。そう、2006年3月の開館から丸5年が経ちました。これまで支えてくださったみなさまありがとうございました。これからもよろしく願います。(Y)

資料館だより No.36
2011年5月号(隔月1日発行)

発行所 あおぞら財団附属
西淀川・公害と環境資料館
(エコミューズ)
連絡先 大阪市西淀川区千舟1-1-1
あおぞらビル5F(〒555-0013)
TEL:06-6475-8885 FAX:06-6478-5885
Email: webmaster@aozora.or.jp
<http://www.aozora.or.jp/ecomuse/>

エコミューズは
青空を未来へ手渡す記録のひろば

西淀川の公害・環境、地域に関する記録資料や環境学習の教材・ビデオなどが豊富です。ぜひご利用ください
開館 ●月曜日、金曜日(祝日は休み)
10:00AM~5:00PM [要予約]
利用 ●図書のご貸出し期限は2週間
書庫資料や裁判記録は閲覧のみ